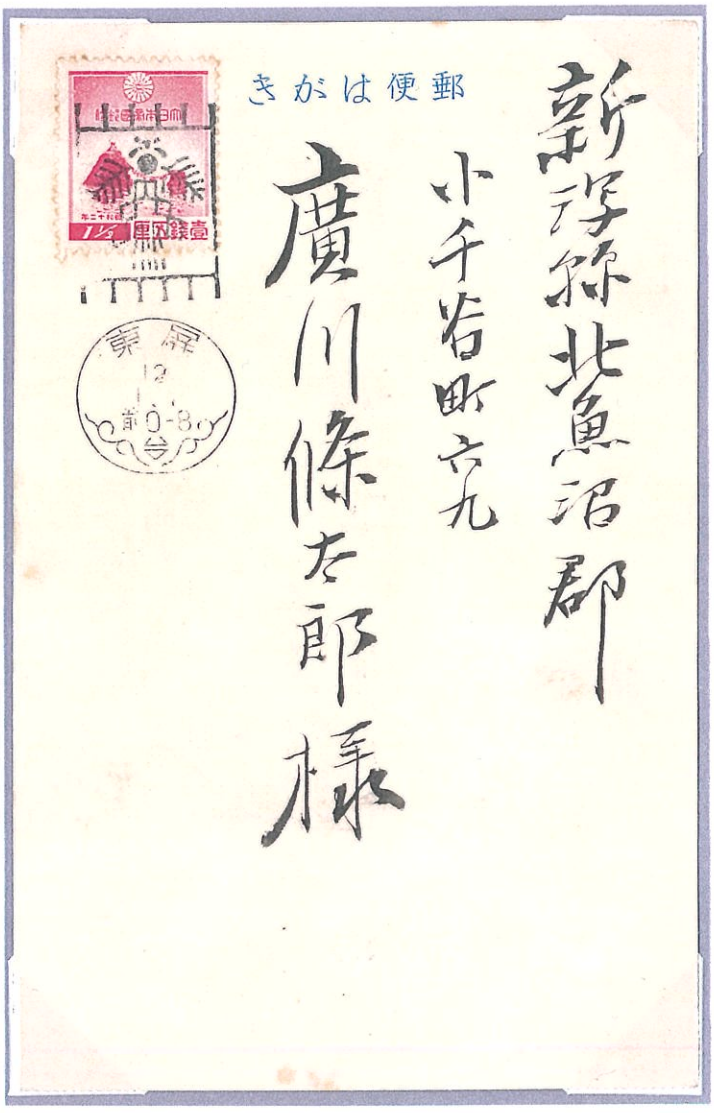
くまもと　385号

日本郵趣協会
熊本支部会報
2024.1

新年あけましておめでとうございます。

台湾での機械年賀印（屏東局）　　内野　実

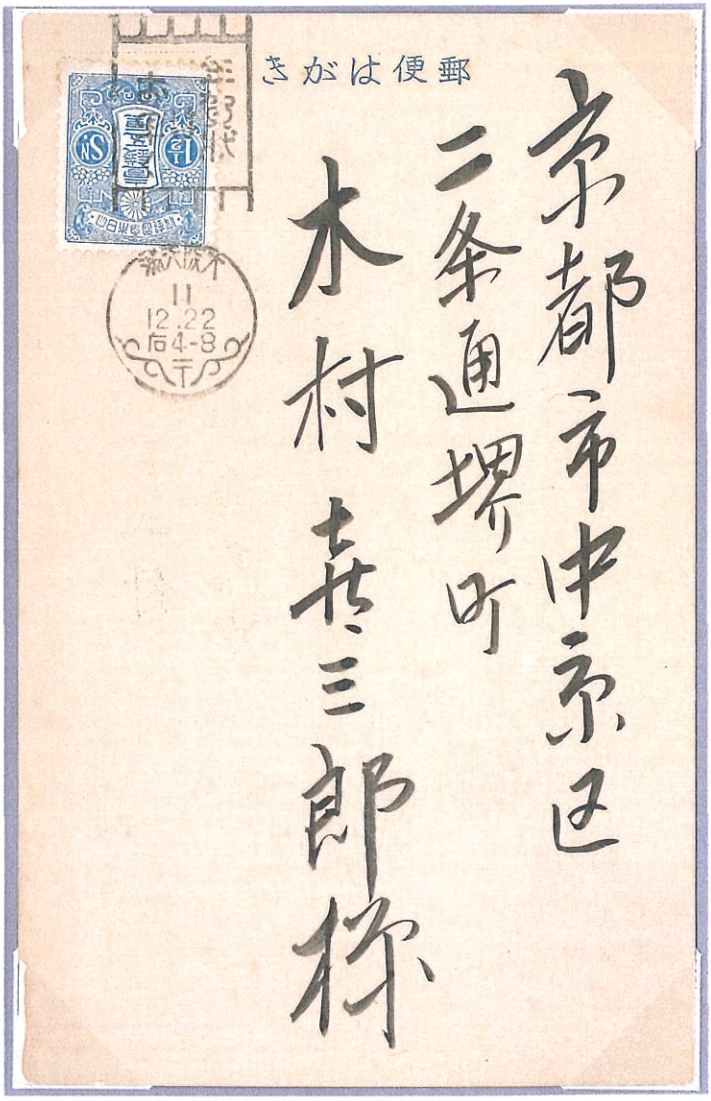


台湾における機械日付印というのは、1920年（T９）林式郵便はがき押印機なるものが使用されたのが、最初である。林式押印機の印影は、櫛型印とほぼおなじ体裁で、はがきの料額印面右下に押印されている。

1919年（T8）、アメリカユニバーサル社のＤ型押印機なるものが輸入され、国内向けに東京中央・日本橋・大阪中央で試用され、1936年（S11）には国産のＤ型機が登場する。

台湾に於いては、1923年（T12）１月１日が最も早い使用例である。

国内向け証示部の唐草模様の中心には「〒」マークが表示されるが、台湾国内の郵便局では「台」の文字を図案化したものが表示されている。（表紙寄稿）



右側は、1936年（S11）のはがきで、大阪・天満局の標語入り機械日付印が押印されている。

この、標語入り機械日付印は、1925年（T14）より、東京中央、日本橋、京橋、横浜、大阪中央、京都、神戸、名古屋の８局にて使用された。

このタイプは、小型波型・局名右書といい「年賀状はお早く」の文言が入っています。波型は、大型から徐々に短くなっていった。

年賀状の季節に合わせて、年賀状関連の話題をお届けいたしました。

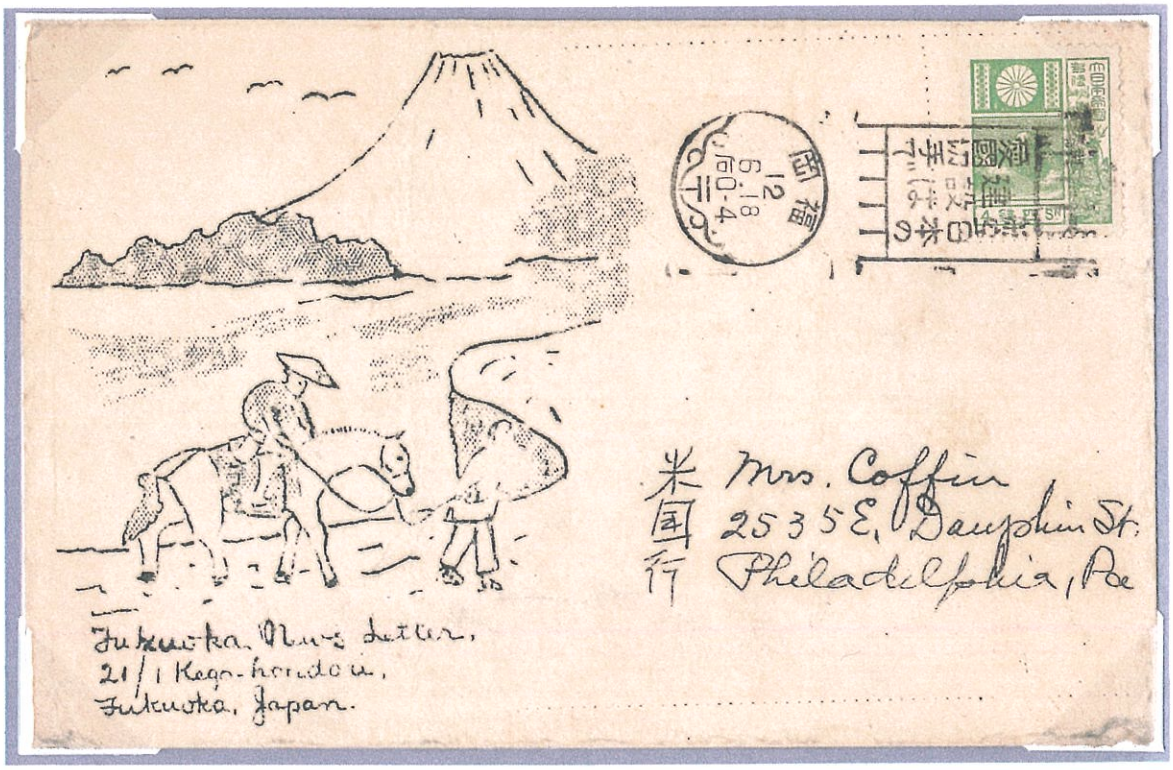
徳島支部報「とくしま」に 13 回にわたり連載された森様の「標語入機械印収集の楽しみ方」に触発され、今回私もサブコレクション的に収集を始めました。

70 歳を前にして、収集範囲を絞ることが目標なのですが、そこが収集家の辛いいところで、なかなか難しい・・・

ハガキのエンタイアを整理してみると、幾つか標語入りの日付印が押されたものがありました。田沢切手の 100 枚束を幾つか頂き、ばらしていくと結構な割合で標語入り日付印が出て来ます。しかし、切手の単片上では全ての文章が掛かっていないので、1974 年に JPS より発行の日本切手百科事典を参考にして、先ずは標語ごとに分類しました。

つぎに、手元にあるハガキと単片切手を組み合わせて基本となるリーフを作成し、なんとなくそれらしい体裁を整えたものが、できました。

12 月福岡で即売会が開催されたので、結構な収穫もあり差し替えもできました。

森様のコメントにハガキが一般的で、封書や外信便を入れるとコレクションに変化を持たせることが出来るとありましたので、ジャパンスタンプのメールオークションにて、それらの一部を入手し、少しだけ作品内容をブラッシュアップすることもできたというのが、現在の状況です。

船便　印刷物　50ｇごと４銭　昭和毛紙貼り「航空日本の/建設は/愛國切手で」